

一斉



全教一斉ひのきしんデー

去る4月29日(月)立教187年度の全教一斉ひのきしんデーが開催されました。伝道庁管内でも各地区ごとに実施日を決め、たくさんの方々が参加されました。左上:オレンジ地区、左下:ボイルハイツ地区、右上:ニューヨーク地区、右下:ガーデナ地区。

天理教アメリカ伝道庁

No.918



tenrikyo.com

MAY

2024



つらつらせんがく 熟々浅学



— 物の言い方 —

先月 4 月 18 日、本部にて教祖誕生祭が執り行われました。管内よりの参拝者を含めて、大勢の帰参者と共に、賑やかに勤め終えさせていただきました。それぞれの土地所にて教祖のお誕生日をお祝いしてくださったと思います。

来月 30 日に迫りました伝道庁創立 90 周年記念祭まで、お互いに成人の道を歩み、素晴らしい記念祭にしたいと存じます。一人でも多くの人にご参拝していただきたいと存じますので、どうぞ宜しくお願い致します。

また、その前日にはアメリカ婦人会・アメリカ青年会創立 70 周年記念合同総会を開催しますので、婦人会員、青年会員の皆様には挙って参集していただきますようお願い致します。

さて、2011 年 3 月 11 日に福島県沖で大地震が発生しました。東京電力福島第 1 原発が運転中でしたが、地震発生後、自動停止システムによって原子炉は停止されました。地震によって外部電源を失ったのですが、地下に設置されていた非常用ディーゼル発電機が起動したので原子炉の冷却システムは、その時点では問題はありませんでした。しかし、その後、地震によって生じた大津波が発電所を襲い、海水が浸水して地下に設置されていた発電機を故障させ、また多数の設備が損傷、或いは流出したため、ポンプの稼働ができなくなり、「全電源損失」に陥り、原子炉内部や使用済核燃料プールを冷却するための水の注水が不可能となり、核燃料の冷却ができなくなりました。核燃料は運転停止後も膨大な熱を発するため、注水して原子炉を冷却する必要がありますが、それができなくなったので、原子炉が所謂「空焚き」の状態となり、核燃料が自らの熱で溶け出すことが生じたのです。そして、炉心溶解（メルトダウン）が起きて、その影響で大量の水素が発生して建物内に充満し、水素爆発を起こしたのです。この

映像は何度もニュースで流れたので、ご覧になられた方も多いでしょう。

その後、原子炉と使用済み核燃料プールを冷やすために注水、または放水がなされ、放射性物質を含んだ使用済みの水がタンクに貯められ、段々とそのタンクの数が増えて行きましたが、当初から、いずれはタンク内の水を海洋に放出する計画であったようです。もちろん、その放出前には「多核接種除去設備（ALPS：Advanced Liquid Processing System）」によってさまざまな放射性物質を除去し、そして「処理水」として海洋に放出するように計画していました。

事実この「処理水」は、含まれている放射性物質の量が基準値を下回っていると国際原子力機関（IAEA：International Atomic Energy Agency）からの判断がなされての海洋放出されていますが、この「処理水」の放出に対してある隣国から「トリチウム（Tritium）という放射性物質が取り除かれていない」というクレームがありました。

「トリチウム」とは「三重水素（Tritiated Hydrogen）」のことで、水素の仲間です。ですので、日々自然発生しており、水道水や雨水、また私たちの体内にも含まれているのです。ですから「取り除くことができない」放射性物質なのです。

先程も書きましたように、この「処理水」は既に IAEA から安全な基準値であることが確認されていますし、クレームした国が放出している原子力発電所での放出される「トリチウム」の値の方が遥かに高いのです。

前置きが長くなりました。

先程「取り除くことができない」と書きましたが、この表現が問題なのです。元来、「トリチウム」は自然に発生しているので「取り除くことができない」のが当たり前の話なのです。

ある方が「取り除くことができない」という言い方ではなく、「取る必要がない」と言うべきだ」と言われて、「ああ、なるほど」と思ったのです。

「取り除くことができない」と言えば、何らかの技術的問題があって「取り除くことができない」と受け止められ、何らかの方法で「取り除くことができる」と思われるのです。そして、それを実行していないことが問題であるという話へと発展して行きます。

しかし、先程も書きましたように自然発生していて自然界から「取り除くことができない」放射性物質ですから、100%「トリチウム」を「処理水」から「取り除くことができない」のです。

また、先程「処理水」と書きましたが、クレームした国では「汚染水」と表現しているようです。同じ「水」ですが、「汚染水」と「処理水」と違う表現の違いによって、全く違う印象の「水」になってしまいます。「汚染水」と聞けば、「危険で汚れている水」というイメージになりますが、「処理水」と聞けば「何らかの処置が施されて綺麗になっている」と受け止められます。

かつて在住していたシンガポールでの話です。

シンガポールは東京 23 区を一回り大きくしたような国土面積の小さな島国で、山と言っても標高 163 メートル程の丘陵ですし、常夏の国ですから積雪はありません。幸い、毎日のようにスコールが降るので降水量は多いのですが、残念ながら、それを貯める貯水池の貯水容量が限られています。

また、人口は私が在住していた時は約 400 万人と言われていましたが、2023 年には約 592 万人になっているようで、それだけの人口を賄う飲料水や生活用水が必要になります。

シンガポールは 1965 年の独立以前の 1962 年に隣国のマレーシアと 99 年間の「水協定」を結んでいます。内容は、マレーシアから毎日 2 億 5 千万ガロンの水が供給され、シンガポールから 500 万ガロンの浄水をマレーシアに供給するもので、シンガポールは 1,000 ガロン（約 3,785.41 リットル）の水を \$1.00 未満で購入しているとのことです。

シンガポールとマレーシアの両国の間にジョホール海峡があり陸続きではありませんが、その海峡は狭く、埋め立てて造られた道路の

「Causeway」と、1998 年に完成した「Second Link」と言われる橋の 2 箇所で両国間は繋がっていて、自動車で往来できるようになっています。そして、その「Causeway」に沿って大きなパイプが敷設されていて、そのパイプを使ってマレーシアから水を“輸入”しています。

しかし、2061 年には「水協定」の契約が切れ、その際に価格を上げられるか、或いは、最悪の場合、契約拒否に遭うかもしれないことを考慮して、シンガポールでは海水を真水にするプラントが造られています。ただ、それだけではなく、下水を一度浄化処理して、更に高度な処理を施して「ニューウォーター（NEWater）」という飲料水も作っています。かつて作られたばかりの「ニューウォーター」を政府関係者が飲んでいるニュースを見たことがあります。現在は 5 つのプラントによってシンガポールの水需要の 40%を賄うことが可能だそうです。

この「ニューウォーター」と命名していることが「ミソ」だと思うのです。「下水浄化処理水」と書けば、飲料水として誰も飲みたいとは思わないのではないのでしょうか。

翻って信仰を伝えることに思いを致しますと、お道の教えの根幹は変わりませんが、伝え方はいろいろとあるでしょう。その時に、間違った教えの伝え方、誤解を招くような伝え方をしてしまったら、教えを曲げてしまうことになりかねません。また、教えに基づいて正しいことを言っているのに、相手を傷つけることになっているのであれば、元も子もなくなります。ですので、どのような言葉を使うのか、またその時の相手の心境や状況を慮って、教えを伝えることは大切であると思うのです。教えの根幹は変えずに、その時の状況や相手の心境に合った言葉を選び、相手が納得できるように伝えることが肝心です。

私たちにとって教えを間違えなく伝え広めることが布教の根幹ですが、その伝え方は千差万別です。その観点から「物の言い方」に工夫を加えることがあっても良いと思うのです。

深谷 洋

立教187年4月月次祭祭文

これの神床にお鎮まりくださいます親神天理王命の御前に天理教アメリカ伝道庁長に代わり主事岡崎マーロン慎んで申し上げます。

親神様には、世界一れつの子供をたすけたいとの深い思召のまに／＼、旬刻限の到来と共に、教祖をやしろにこの世の表にお現れになり、たすけ一条の道をお付けくださいました。爾来、五十年に亘る教祖のひながたを手本に、御教えを実践し、陽気ぐらしへの道を勇んで歩ませていただいておりますことは、誠に勿体なく有難い極みでございます。その中にもこの月は、御存命の教祖がお生まれになりました芽出度い縁の月に当たりますので、今日の佳き日に、只今から、おばの理を頂戴して、おつとめ奉仕者一同、慶び心をもって、陽気に座りづとめ、てをどりをつとめて、当伝道庁の四月月次祭を執り行い、併せて、教祖の二百二十六回目のお誕生日をお祝いさせていただきます。

御前には、今日の日を楽しみによふぼく、信者一同が参集し、日頃賜る御高恩に御礼申し上げ、尚も変わらぬ御守護を頂戴したいと伏し拝む状をも御覧くださいまして、親神様にもお勇みくださいますようお願い申し上げます。

今月は、教祖誕生祭参拝のため、管内より大勢の教友が帰参しておりますが、それぞれがおばの理を頂戴し、土地所に戻りましてからは、尚も勇み心でたすけの御用をつとめられますようお願い申し上げます。

また、今月から来月にかけて、管内各地でひのきしんデーを開催しますが、にをいがけの一助にもなりますようお願い申し上げます。

私共は、教祖百四十年祭年祭活動二年目の時旬に、世界にお見せいただく戦争や紛争、或いは自然災害を鑑みて、陽気ぐらし世界実現を急き込まれる親神様の思召を改めて思案し、教祖のひながたを頼りに、たすけ一条の道を邁進し、また、本年六月三十日に迎えます当伝道庁創立九十周年記念祭に向けて、管内が一手一つとなって、更なる心の成人に励ませていただきたいと存じます。何卒、親神様には、私共の真実の心をお受け取りくださいまして、世界の人々の心が澄み渡り、互いにたすけ合って暮らせる世の状に、一日でも早く立て替わりますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

4 月月次祭神殿講話

サクラメント教会長
小島 ブライアン

皆さんこんにちは。アメリカ伝道庁の四月の月次祭にお集まりいただいている皆さんの素敵な笑顔を見ることができ、とても嬉しく思います。只今は、親神様から教祖を通してお教えいただいた通りに「おつとめ」の鳴り物とおてふりを勤めさせて頂き、これから今月のお話をさせて頂く時間になりました。

伝道庁月次祭でのお話は、なぜか3回目のような気がしますが、3回目なのです。前回お話しさせて頂いたのは2020年12月で、コロナ禍のため、当然バーチャルでしたので、そんな気がするのだと思います。正直なところ、今回は何をお話ししたら良いのか、考えをまとめるのに苦労しました。お話しさせて頂く私の至らなさをあらかじめお詫び申し上げます。本日のお話しから何かを感じ取っていただければ幸いです。どうぞお付き合い頂けますようお願いいたします。

まず始めに、おふでさき第1号45と46のお歌を拝読したいと思います。

よるづよのせかいちふうをみはたせバ
みちのしだいもいろ／＼にある
このさきハみちにたとへてはなしする
どこの事ともさらにゆハんで

今の自分の人生を深く考えさせられる、とある幼い頃の思い出があります。私が5才の頃、サクラメント教会の近くに住んでいました。当時、祖父が会長でした。車で5分、歩



いて15分から20分くらいのところに住んでいました。その日、私は妹のシャロンと、生後8カ月くらいだった妹のローリーを母が抱っこして教会まで歩いたのを覚えています。なぜ私たちがあんなに急いで教会に向かったのか、その理由を当時の私が知っていたかどうか分かりませんが、覚えているのは、救急隊員が担架に乗せられた祖父を救急車に押し込んで、地元の病院に向かうのを見ていたということです。

病院で、シャロンと私は祖父に会うためにベンチに座って待っていたことをかすかに覚えています。ようやく祖父に会うことができたので、ベッドの横に行くと、祖父は私に何か言いました。何を言われたのかはよく覚えていないのですが、祖父が私や妹たちをとてもしかけてくれていたという感じがしたことを覚えています。それが生きている祖父を見た最後でした。祖父のことはあまり詳しく

覚えていませんが、祖父の思い出は私の人生を通してやる気を与えてくれました。

子供の頃、少年会の総会や海辺で行われるサマーキャンプなど、天理教のプログラムに参加するように父に言われました。また10代の頃は、天理教学生会の春と冬の練成会に定期的に参加していました。おぢばにもよく帰ったのを覚えています。夏のこどもおぢばがえりにも何度か参加しました。高校生になると、学生生徒修養会に参加しました。1984年に親里セミナーができる以前、私たちはこれに定期的に参加していました。そして1984年と85年の夏休みは、まるまる親里セミナーで過ごしました。当時の親里セミナーは50日間でした。両親はきっと、私が教えをより深く学べるようにと、これらすべてのプログラムに参加するように勧めてくれたのだと思います。それが功を奏したのでしょうか、最終的に私は教会長となり、サクラメント教会の職務を引き継ぐことを決意しました。

おふでさきの第3号5と6のお歌にこのように書かれてあります。

いまゝではなによの事もハかりない
これからみえるふしぎあいづが
こんものにむりにこいとハゆうでなし



祭典後、サンデースクールの少年会員を中心に教祖のお誕生日をお祝いしました。

つきくるならばいつまでもよし

私の人生にとって大切なもの、特に家族には本当に感謝しています。妻の由美子と結婚して24年になり、4人の子供がいます。息子3人は23歳、20歳、18歳の青年なので、子供とは言い難いですが。それと、14歳の娘が一人います。今年でサクラメント教会の会長にならせていただいて20年になりますが、信者さん方がとても良くサポートして下さるので、恵まれています。また、カリフォルニア州立大学サクラメント校で10年近く管理人として勤めさせて頂いています。肉体労働が多いですが、幸運だと感じています。

昨年7月から、私は大学図書館1階の清掃を担当することになりました。私の仕事のひとつは、吹き抜けにあるリサイクル品、ゴミ、コンポストが入った3つのゴミ箱から袋を回収することです。残念なことに、ほとんどの学生がゴミ箱の指示に注意を払わないため、すべての袋をゴミとしてまとめざるを得ないのです。もう少し配慮して欲しいなと思います。シフトの後半に時間があれば、テーブルやベンチを拭いたり、リーフ・ブロワーで落ち葉やゴミを集めたりします。時には立ち仕事から解放され、吹き抜けの舗装を掃除する



のに機械に乗ることもあります。私が担当している建物は他にもありますが、詳細はここでは省きます。ただ、昨年12月から、図書館の責任者である大学の学部長が、大階段やその他の階段があまりきれいでないと言っていました。

私たちの部署では、従業員の多くが最近退職したり、給料の良い他の仕事に移ったり、肉体労働に耐えられなくなったりして、人手不足に陥っているので個人的な批判として取らないようにしています。私はただ、最も清掃が必要な場所を最初に掃除し、それから時間があれば他の場所を清掃するよう最善を尽くしています。

時々、ゴミを集めたり、吹き抜けのテーブルを拭いたりしていると、生徒たちからお礼を言われることがあります。このようなコメントは、その日があまり良くなかった時などに、絶妙なタイミングで言われることがよくあり、シフトを乗り切る上で本当に救われます。このような時、親神様と教祖が私の一日が円滑に進むよう見守って下さっていることを実感します。

おふでさき第3号36、37のお歌にはこのようにあります。

いまの事なにもゆうではないほどに
さきのをふくはんみちがみへるで
いまのみちいかなみちでもなけくなよ
さきのほんみちたのしゆでいよ

サクラメント州立大学で働き始めたとき、私の勤務時間は月曜から金曜の午後4時から午前12時半まででした。そのため、子供たちが学校に行く時間にもほとんど顔を合わせることができませんでした。疲れ果てて帰宅すると、気前のいい妻が朝づとめをし、子供



たちを学校に送り、私は寝させてくれました。私が子供たちと会うのは週末くらいでした。子供たちが大きくなった今、妻は定期的に月曜日から金曜日まで働くようになりました。水曜日から金曜日までは、早く出勤するので、今は私が定期的に起きて朝づとめをし、娘のブリアナが学校に行く準備をしていることを確認します。また、三男のブレイディの出勤準備も万全であることを確認します。

『おかきさげ』の最後の段落にはこのように書かれています。

また一つ第一の理を論そう。第一には所々に手本雛形、論す事情の理の台には日々と云ふ。日々には家業と云ふ。是が第一。

この教えは、私の心を正しい方向に向かわせてくれるので、特に感謝しています。親神様と教祖を信じているからこそ、私たちの家庭はうまくいっているのだと思います。

昨年、次男のプレットが天理教語学院を卒業しました。一年間日本語を学び、3月に帰国しました。先生方とクラスメートのおかげで、息子は最後まで集中力を保ち、コースを終了

することができました。また、名京詰所の多くの方々にお世話になりました。

長男のブライスも同時期に日本に滞在し、名古屋にある名京大教会で1年半ひのきしんをし、昨年10月につとめられた名京の100周年の準備の手伝いをさせて頂きました。二人とも今は自宅で教会の手伝いをしたり、毎月の月次祭に奉仕したりしています。

また、 sacrament 教会の信者さん方の支援と参加に感謝しています。昨年は、コロナの規制が解除されたおかげで、私たちの教会から多くの教友がおぢばに帰ることができました。夏には5名が別席のお話を拝聴し、3名が親里セミナーを受講しました。このグループのうち、ありがたいことに5名がおさづけの理を拝戴することができました。また、教会から1名が夏のこどもおぢばがえりにアメリカ団と共に参加しました。そして、昨年10月には、名古屋の名京大教会で開催された100周年と、おぢばでの秋季大祭に14名が教会から帰参しました。この時、1名が25日におさづけを頂きました。

11月末には、いとこ一家の団体総勢11名が

名京大教会に数日間滞在し、その後おぢばに帰り、そのうちの2名が別席を運びました。昨年は多くの教会関係者がおぢば帰りをし、7名がおさづけの理を拝戴して下さい、本当に有り難かったです。

あと3ヶ月で真柱様の奥様と大亮様が6月29日土曜日の婦人会・青年会の合同総会に、6月30日、日曜日の伝道庁90周年にご臨席下さいませ。この特別な機会に私の教会から多くの方が参拝します。皆さんも参拝されることと願います。どうぞご都合をつけてお祝いにご出席ください。

ご清聴ありがとうございました。



上記QRコードから伝道庁ウェブサイトにて神殿講話を動画でご覧いただけます。



Interpreter's Workshop

4月20日、月次祭後の3時から、翻訳委員会主催の通訳ワークショップが開催されました。





伝道庁連絡



4 月月次祭

祭主 岡崎マロン
 扈者 川上和海 林 孝彦
 賛者 伊藤伊智郎 屋敷ゲーリー
 指図方 大西 知
 神殿講話 小島ブライアン（英）

教会事情

加奈陀教会：臨時祭典願、恒例祭日臨時変更願
 おはこび：2024 年 4 月 18 日
 創立 90 周年記念祭：2024 年 12 月 1 日
 シンゴ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2024 年 4 月 18 日
 教会長：木村陽介
 奉告祭：2024 年 7 月 28 日
 台壇教会：移転願、臨時祭典願
 おはこび：2024 年 4 月 26 日
 教会長：ソー・リン・ミツノ
 鎮座祭：2024 年 7 月 27 日、
 奉告祭：2024 年 7 月 28 日
 オレンジ教会：任命願、臨時祭典願
 おはこび：2024 年 7 月 26 日予定
 教会長：伊藤錦平
 奉告祭：2024 年 9 月 21 日

三代真柱様十年祭

三代真柱 中山善衛様の十年祭が、2024 年 6 月 24 日に教会本部にて執り行われます。

全教一斉ひのきしんデー

ひのきしんデーを実施された地区の担当者は、実施報告書を伝道庁（担当：増野）までご提出下さい。

第 85 回アメリカ修養会

第 85 回アメリカ修養会が、2024 年 7 月 21 日（日）から 8 月 17 日（土）まで開催予定です。開講約 1 ヶ月前（6 月 16 日）までに、英語・日本語クラスは 2 名以上、スペイン語クラスは 5 名以上の申し込みがある場合に限り開講予定です。

TSA 春季練成会

TSA 春季練成会が 5 月 25 ～ 27 日の日程でアメリカ伝道庁にて開催されます。今回のテーマは「信仰の喜び」です。

申込書は各教会・布教所・出張所に配布されており、アメリカ伝道庁のホームページからも入手可能です。

締切日：5 月 19 日 ※当初の締め切りは過ぎましたが、受付期間を延長致します

メモリアルデー墓参

伝道庁では、5 月 27 日（月）午前 10 時より参拝後、エバングリオン墓地へ墓参を致します。

アメリカれつ会新規扶育生募集

2024 年のアメリカれつ会新規扶育生の募集を開始します。対象は、管内教会長、布教所長、出張所長の子弟子女で、大学入学が決まっている方です。扶育を希望される方は、伝道庁に願書を用意しておりますので、ご連絡下さい。願書締切は、6 月 30 日（日）です。新規扶育生は 8 月伝道庁月次祭時に発表致します。尚、2、3、4 年目の扶育生は、願書の提出はありませんが、休学、転校等があった場合、8 月 31 日までに必ず伝道庁までお知らせ下さい。

記念祭前大掃除

5 月 26 日（日）の遥拝式後、午後 12 時 30 分より、アメリカ伝道庁 90 周年記念祭に向けて、年末大掃除同様、神殿、附属建物の大掃除を致します。伝道庁近郊の教会長、布教所長、出張所長をはじめ、大勢の教友にもお手伝いいただきたいと存じますので、何卒、よろしくお願い致します。尚、その日、昼食を希望される方は、準備の都合上、5 月月次祭（5/19）までに書記にお知らせください。

祭典役割

昨年までは、コロナ禍の事情により、おつとめ奉仕者には半年毎に伝道庁祭典参拝の出欠を確認し、また第 2 日曜日頃までその月の参拝の有無の最終連絡を待っているため、祭典役割の連絡は第 2 日曜日を過ぎ、多くの方に役割確認の電話を頂戴する状況になっていました。そこで、本年（2024 年）より、月初めにはその月の祭典役割をお知らせできるようにしています。就きましては、祭典参拝の有無、或いは変更は、参拝予定月の前月月末までに伝道庁に連絡して下さいますようお願い致します。例えば、6 月月次祭参拝有無に関しては、今月末（5 月 31 日）までに最終連絡を下さいますようお願い致します。



ふしん委員会

・会館 2 階のゲストルームにて、ドアの設置が完了。現在塗装作業中。

- ・庁内の除草作業を進めています。
- ・新しく設置した洗濯機・乾燥機のための電源の設置。
- ・オフィス周りのアスファルトを除去し、コンクリート打設を計画中。

教化育成委員会

- ・今年おやさと練成会を受講する生徒とその保護者を対象に、ハワイの対象者と共にオンラインでのミーティングを5月19日(日)午後4時に開催します。Q&Aや、親睦を深めるために学生だけの時間も少し設けます。
- ・TSA春季練成会 5月25日(土)～5月27日(月) 申込用紙はアメリカ伝道庁のホームページから入手可能です。
内容：講話、暹拝式参拝、大掃除参加、お楽しみ行事

広報委員会

- ・90周年に向けた活動のアイデアを管内の方々が共有できるようにとの思いで、実際に活動している方々の情報を「一れつ・ニュースレター」に連載しています。つきましては、各教会・布教所・地区、また身の周りの方々の活動情報・写真等の提供をお願い致します。
情報提供先：川上 (kamishuyo@hotmail.com)
林 (takhayashi@gmail.com)
- ・伝道庁ホームページ「Stories Inspired by Oyasama」動画、「SoulFire」の記録ビデオ、祭典講話、Podcast等が視聴出来るようになっていきます。是非、伝道庁ホームページをご覧ください、また周りの方々に紹介いただきますようお願いいたします。



Stories Inspired by Oyasama



SoulFire

- ・伝道庁90周年記念祭に関する情報もアップデートされております。
- ・What's new at Tenrikyo.comを皆様にメールしております。

婦人会

- ・アメリカ婦人会創立70周年記念写真集の編集、合同総会を準備中。
- ・地区総会
サンフランシスコ地区 9月28日(土)

- 場所：サンマテオ教会
ロサンゼルス地区 9月29日(日)
場所：アメリカ伝道庁
シカゴ地区 9月29日(日)
場所：ミッドウエスト教会
ニューヨーク地区 10月5日(土)
場所：ニューヨークセンター
カナダ西部地区 11月3日(日)
場所：ジョイアス布教所

少年会

- ・ファンドレイジングにご協力ください！
オンラインでポップコーンを販売するファンドレイジングを行います。詳細はチラシをご覧ください。
- ・KIDS FUNFEST
90周年記念祭の週末、少年会員を対象とした行事を行いますので、帰参されますお子様は申込用紙にご記入ください。以下URL、QRコード。
<https://forms.gle/vyYD882Rcq71M1ud9>



- ・少年会おつとめまなび総会
8月17日(土) 於：伝道庁
おつとめまなびの役割表が先月発表されました。各家庭、教会等で練習をお願いします。
- ・こどもおちばがえり
ジェネラルグループ：7月24日～30日
今年からハワイ団との合同隊となります。
申込締切：5月31日
- ・海外少年ひのきしん隊
7/25～30 申込締切：5月31日

青年会

- ・5/19 ひのきしん
伝道庁前、歩道沿いのペンキ塗り
- ・6/16 ひのきしん
壁の高圧洗浄、駐車場の草抜き
- ・6/29 アメリカ婦人会
アメリカ青年会創立70周年記念合同総会
午後2時
- ・7/18～24 インターナショナルひのきしん隊
申込をアメリカ青年会の会員に配布しました。問い合わせは(kkryono@gmail.com)までお願いします。

NYセンター

- ・5/19 ヤードセール
- ・5/26 青年会主催ファミリーBBQ

90th Anniversary

SHARING OUR JOY OF FAITH
Tenrikyo Mission Headquarters
in America

Saturday
**JUNE
29**

1:30 - 3:30 PM

70th Anniversary Joint
Convention
Young Men's and Women's
Associations
Attended by Mrs. Harue
Nakayama and Mr. Daisuke
Nakayama

3:30 - 9:00 PM

Commemorative program
and Dinner Reception

Sunday
**JUNE
30**

10:00 AM

Tenrikyo Mission Headquarters
in America
90th Anniversary
Commemorative Service

1:30 - 3:00 PM

Reception and
Entertainment



For Further Information, visit our website at tenrikyo.com
Tenrikyo Mission Headquarters • 2727 East 1st St • Los Angeles, CA • 90033

TENRIKYO MISSION HEADQUARTERS IN AMERICA
2727 EAST FIRST STREET
LOS ANGELES, CA 90033

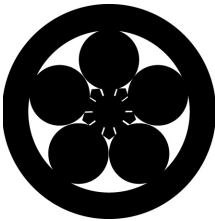
NON-PROFIT ORG.

U.S.POSTAGE
PAID

LOS ANGELES. CA
PERMIT NO.30002

CHANGE SERVICE REQUESTED

THE JOYOUS LIFE



TENRIKYO came into existence on October 26, 1838, when God the Parent, Tenri-O-no-Mikoto, became revealed through Oyasama, Miki Nakayama, to save all humankind. God the Parent is the original and true Parent who not only created humankind but has nurtured and protected human beings ever since.

God the Parent created humankind so that by seeing us live the Joyous Life, God could share in our joy. The living of the Joyous Life is, therefore, the purpose of our existence. Since God the Parent is our Parent, we are all God's children, and thus we could realize that we are all brothers and sisters.

“With human beings:the body is a thing lent by God, a thing borrowed.
The mind alone is yours.”
Osashizu:June 1, 1889

We are taught that our bodies are borrowed from God the Parent and only our minds belong to us and, by the proper use of our minds, we will be able to live the Joyous Life.